

## 美山の観光振興に新たな力

— 一般社団法人南丹市美山観光  
まちづくり協会事務所開所 —

8月31日、日本版DMO（※）として設立された、一般社団法人南丹市美山観光まちづくり協会事務所開所式が、美山農業総合振興センターで行われました。開所式で代表理事の中川幸雄さんは「国定公園の誕生など、美山町の多くの資源を生かす好期である。これらを生かすためにも、観光に関する各種のデータを収集し、戦略を策定するとともに、観光商品の造成、販売や窓口の一元化を進めていきたい」と話されました。

※官民協働で多様な関係者と連携し、地域づくりを進める法人



▲新たな事務所の開所を祝う関係者ら



▲安全祈願の神事で土に鍬を入れる秋田理事長(中央)ら

## 安全を祈願し、起工を祝う

— 八木駅西土地地区画整理事業

起工式 —

9月14日、八木駅西土地地区画整理事業の起工式が、施行区域内で行われました。起工式では安全祈願祭も行われ、関係者は工事の安全を祈りました。八木駅西土地地区画整理組合の秋田文夫理事長は、「この先、取り組んで良かったなと思えるまちづくりを進めていきたい」と話されました。

平成32年度までに、JR八木駅西側の10・5ヘクタールの区域に、宅地や公園、道路などが整備される予定です。

## 地元住民や関係機関と連携 里山育成に企業協力を得る

— 森林の利用保全に関する協定 —

9月12日、高砂熱学工業株式会社大阪支店、大河内生産森林組合、公益社団法人京都モデルフォレスト協会、京都府および市が森林の利用保全に関する協定を結びました。協定に基づき同社の協力を得て、園部町大河南地区の森林41・31ヘクタールの利用や保全が行われます。

調印に際し、同組合の大西一三組合長は、「同社の協力を得て地域の良好な里山環境を作り、地域振興につなげたい」と話されました。



▲市役所会議室にて調印式に参加する関係者ら



▲調印した協定書を中央に協定を祝う関係者ら

## 地域の課題解決に取り組む

— 南丹市と同志社大学政策学部  
の連携に関する協定 —

9月29日、市と同志社大学政策学部・大学院総合政策科学研究科が、人材育成や地域振興に向けた包括的な連携協定を結びました。

調印式で、同志社大学の真山達志教授は、「合併による一体化の中、旧町の特徴をバランス良く反映していくことは難しく、また課題である。旧町にある地域資源や合併した強みを生かして、全国モデルとなるような地域ビジネスを生み出し、発信していきたい」と話されました。